

IAR Embedded Workbenchによる ARMシミュレータ・デバッグ

土居 敬治

ARM向けの統合開発環境 IAR Embedded Workbenchにはエディタやコンパイラだけでなく、ARM CPUシミュレータが内蔵されている。これを使うことにより、作成したプログラムを統合開発環境内のシミュレータでそのまま動作させられる。ここでは、無償評価版 IAR Embedded Workbench を使い、ARM 対応プログラムのデバッグを行う。(編集部)

本章では、統合開発環境 IAR Embedded Workbench に内蔵されているシミュレータ・デバッグ機能の活用方法を解説します。このシミュレータ・デバッグは、統合開発環境にシームレスに組み込まれており、実機に対するデバッグと全く同じ操作で使用できます。

1 IAR Embedded Workbenchの準備

Webサイト (http://www.iar.com/downloads_jp) にアクセスし、無償評価版 IAR Embedded Workbench のインストーラを入手してください。図1に示すように、さまざまなデバイスがサポートされていますが、今回は ARM

用のコード・サイズが制限されたバージョンを選択します。なお、以下の説明では、ARM用の IAR Embedded Workbench を省略して EARM と呼ぶことにします。

EARM をインストールした後、「スタート」メニューから「プログラム」→「IAR Systems」→「IAR Embedded Workbench for ARM x.xx Kickstart」→「IAR Embedded Workbench」を選択し、EARM を起動します (x.xx はバージョン)。

EARM の IDE が起動すると、図2のように IAR インフォメーションセンタが表示され、ここから目的に応じていろいろな機能に簡単にアクセスすることができます。本章の解説では、チュートリアル・プログラムを使用するので、「チュートリアル」のボタンをクリックしてください。

次に、図3のようにチュートリアルのページが開くので、「チュートリアルワークスペースを開く」をクリックします。

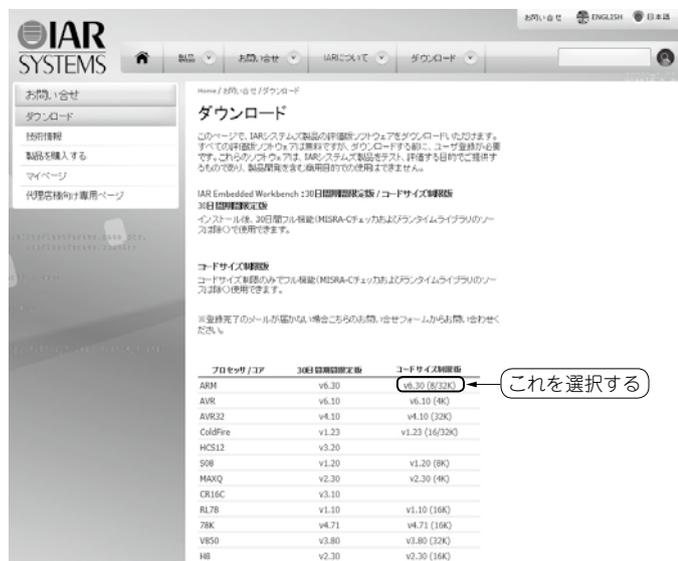


図1 IAR Embedded Workbenchの入手



図2 IDEの起動画面